

編輯だより

雨の日

○雨の日は幼稚園の禁物ときまつて居たりするが、そう嫌つてばかり居ても仕方がない。雨の日は雨の日らしい一日がもてないものだらうか。

○一月三十五日、雨の日は此外とばかりも言はれまい。北緯何度、温帯の國として、殊に支那大陸の方の關係から、毎年のことに昔からきまつて居る梅雨といふものを、毎年新しい特別のことに様に思ふばかりも居られまい。

○傘があり、足駄がめり、合羽がある。幼稚園の保育にも、雨の日の用意は、ちやんと初めから出来て居ていゝものではあるまいか。殊に、子どもの方では、おとなが屈托する程に雨の日を困るものでもない。それを子どもに持ちあぐませるのは、吾等の方に用意が足りないせいではあるまいか。

○雨日またよしと茶人めき詩人ぶる譯ではないが、うす暗い室内あまたれの音、窓硝子の外に見る桐の雨、なか／＼捨て難い趣のあるものもある。それが子どもには又子どもらしく、おもしろい印象のあつたりするものもある。やゝ、しんみりとしたお話しづかなお客さまごっこ、或は部屋のうち暗さを利用した影繪、幻燈、人形芝居も興があらう。

○雨のいろ／＼には、それ相應の遠つた味もあり、趣きもある。それにふさばしい題目もいくちもあらう。雨の日の雨ものがたり源氏ではないが、いゝ一巻の保育日誌をつくつて見るのもよからう。(倉)

御注意	料告廣	表價定		冊數	定價	郵費
		表紙前付	裏紙裏付			
(外國行郵税は一部十二錢の割にて御座下さい) △本誌購讀御希望の方は定價表により振替貯金で御送金下さい(東京四六壹壹番教文書院宛) △前金切れの節は帶紙に「前金切」と致します。 △郵券送金の節は一割増で一錢の手に願ひます。 △本誌の一切は教文書院宛御照會下さい。	普通面一頁	金四拾五圓	同	一冊	金參拾五錢	金壹錢
	表紙前付	金七拾圓	同	六冊(前金)	金貳圓拾錢	金壹錢
	裏紙裏付	金七拾圓	同	十二冊(前金)	金四圓貳拾錢	金壹錢

大正十三年五月二十八日納本 第二十四卷第三號

無斷 無載 轉載 禁

編輯者 東京女子高等師範學校内日本幼稚園協會 倉橋惣三  
 發行所 東京市下谷區上根岸八十八番地 越元新吉  
 印刷者 東京市小石川區戸崎町七十二番地 沖田瀧次郎  
 印刷所 教文書院印刷部

發行所 教文書院

東京上野公園寛永寺坂下(上根岸八十八)

電話下谷三〇四七番・一九五一番  
 振替東京四六一一一番